

菜種

なたね

編集と発行

北栄町農業委員会
北栄町土下112 (北条庁舎)
Tel (0858) 36-5567

大栄小学校のみなさんと

「農家のみなさん、
おいしい野菜を
ありがとう」

がんばってます 女性農業委員
給食センターに食材納入

北栄町には、大栄地区、北条地区のJA女性会で組織されている給食会があります。
両地区ともに女性農業委員が代表を務めています。北条は平成14年から、大栄は平成21年から、給食センターに加工品を含めた食材を納入しています。

町内全ての、保、幼、小、中学生に地場の新鮮な野菜を届けることで、地産地消の推進にも貢献しています。

今年も、学校給食週間では、両地区の小学校にそれぞれ招待され、子ども達と給食を共にしました。「いただきます！」と同時に、子ども達に走る子ども達の姿にびっくりしました。

給食を食べながら、子ども達から野菜作りについて質問を受けたり、又生産者からは、野菜にも命があること、食べることは命につながることを話したりして、有意義な楽しい時間を過ごすことができました。

こうした活動を通して、北栄町の子どもの生活、成長に参加できることに給食会のメンバーは喜びを感じています。

これからも、自慢の野菜で子ども達に「おいしい、おかわり！」と言ってもらえるよう私達は頑張ります。

北条給食会代表 淀瀬 千賀子

優秀農業川柳

1月28日(土)に行われた、「ALL北栄アグリフォーラム」で募集した農業川柳の受賞作品から一部をご紹介します。

※小中学校の部

【優秀賞】

畑には ハウスがいっぱい 山みやくだ

がんばって しゅっかしたのに へんびんで

祖父の汗 父から僕へ つないでく

農家さん 歳には負けず 笑顔勝つ

川本 大貴(大栄小学校)

磯江 泉寿(北条小学校)

谷口さとみ(大栄中学校)

岩峰 晴也(大阪府吹田市
豊津西中学校)

ALL北栄アグリフォーラムを開催して

実行委員会委員長 濱坂良男

去る1月28日、「今、考えよう。未来の農業と地域」をテーマにALL北栄アグリフォーラムを開催しました。雪の残る中、約250名の参加を得て熱い時間を過ごしました。会場アンケートによれば大半の方が満足され、来年も開催して欲しいとの回答がある一方、せっかくのフォーラムにもっと参加してもらおうようにPRを徹底すべきだ、さらに内容、方法を検討すべしとの意見も頂いた。実行委員会ですっかり反省、検討します。参加頂いた方はさらに輪を広げて頂くようお願いいたします。

平井県知事は講演の中で、「北栄町農業は水田、砂丘地、黒ぼく畑、果樹、畜産とバランスのとれた環境を有し、農業を核にして色々な展開と可能性を持った地域だ。それをどう発見し、完成させていくか、無限の魅力を秘めた町だ。」と県内の色々な事例を紹介しながら熱く話された。

意見発表では、今村憲治氏（江北浜）が「ヴィンヤード100年計画」と題してブドウ栽培を通して、ワイン造り、観光園、砂丘地農業の活性化に関わりたいたいと熱く語られ、一方、森本充裕氏（大谷）は森本農園の4代目として「利益の拡大」を目標に、雇用を取り入れ、営業も出来る経営者になりたい。また、若手農家が集まって勉強できる仕組みを作りたいと目を輝かせて、まっすぐに将来を見据えて堂々と発表された。

シンガーソングライター講演師 石川達之氏は歌と語りの中で、人生を見つめ、何気ない出来事を見出し、感動すること、人生の危機も一つ芯になる物

を持てば、乗り越え、楽しい人生が展開すると唄われたように思う。

2010年農業センサスによれば、全国農業従事者は約260万人で平均年齢は65.8歳（うち65歳以上は61.6%）、鳥取県は33,440人で68.3歳（うち65歳以上は68.6%）、北栄町では2,196人で63.7歳（うち65歳以上は53.8%）となっている。生命産業と言われる農業を担う人がこれから先5年から10年の間に大きく減少することは想像に難しくない。今、世界、政治、経済、農業は複雑な関係の中で身動きできない、先の見えない状況になっています。しかし、過去は何の問題も無く過ぎて来たのだろうか。逆に考えれば、こんな時こそ勇気さえあれば何でも挑戦、行動出来る時ではないだろうか。勇気、誇り、自信を持って取り組む時だと確信する。

百聞は一見に如かず、百見は一考に如かず、百考は一行に如かず（中国 漢書）



頑張っています 農業後継者！

～農業という仕事～

茶ヤ条 村岡 高志 （33歳）

私は高校を卒業した後、1年間専門学校に通い土木関係の仕事をして9年間していました。4年ほど倉吉に住んで仕事に行っていましたが、平成19年に実家に帰り、農業をする事になりました。自分には弟が二人いましたが、家の農業を継ぐのは自分だと思っていました。

会社勤めと違い、農業は自分達で行うものだから、少々気楽な気持ちで仕事を始めましたが、現実とは全く違うものでした。夏場は朝早くから夜遅くまで、秋から冬にかけては収穫した野菜の出荷作業を遅くまでし、土日に関係なく仕事と、会社勤めとのサイクルの違いに最初は困惑しました。作業も同じ事を繰り返す事が多いので、体力的というか精神的に疲れました。

ですが、仕事に就き1年2年と経過し、農業としての1年間のサイクルも分かってきて4月で6年目を迎える今は、ゆとりもでき気持ち的にもだいぶ楽になり

ました。作る野菜等も初めは何とも思っていないでしたが、作る事の難しさ楽しさなど多くの事を学べたため、今は自分なりにこうしたいとか向上心ができました。また農業を通じていろんな人との出会いがあり、とても貴重なものとなりました。農業には終わりはないと思っています。追及すればするほど課題は出てくるし、答えはいくつもあると思っています。自分の考えとしては、失敗した事を次にどう生かせるかだ

と思っています。それがうまくいけば、自分としての底上げになり安定した作業、経営ができると思っています。これからはいろいろと頑張っていきたいと思えます。



○北栄町とJA組合長の懇談会

今、農業は不透明で難しい問題を多く抱えています。農業委員会は、将来への展望を切り開き着実に課題を解決していくための一つの方策として、町行政とJA鳥取中央のトップリーダー・両機関の職員相互による一層の連携を呼びかけ、1月28日、北栄町松本町長とJA鳥取中央福山代表理事組合長による農政懇談会が開催されました。

懇談会では、葉タバコの廃作に伴う諸課題への対応、大栄地区の多機能ファックスの後継システム構築、農業振興条例の策定、来年度の「まんが王国とっとり建国記念 国際まんが博」とのタイアップ等について、互いに意見を交わされました。

今後、町行政とJAそれぞれの役割分担を明確にし、トップダウン方式で速やかな実践を目指すとともに、この懇談会を定期的に行っていくことが確認されました。



○H24年度北栄町の主な農業振興関連予算案

H24年度の当初予算の一部を紹介します。3月の定例議会に提案される予定です。

- ・青年就農給付金 750万円
原則45歳までの新規就農者（親元就農は対象外）に年間150万円を最長5年間給付
- ・葉タバコ耕作農家品目転換支援事業 980万円
葉タバコ廃作に伴い新たな品目の生産を開始する農家に対し機械導入費を半額補助
- ・食と農の魅力創造支援事業 50万円
加工品づくり等、多様な「6次産業化」の取組を支援
- ・新農業通信システム構築補助金 242万円
新しい伝送路の布設に伴い使用できなくなる大栄地区多機能ファックスに替わる装置への支援
- ・北栄農産物のファンづくり・情報発信推進事業 667万円
観光農園、インターネット、直販など、多様な販売チャンネルを充実。Webサイトの企画運営等、販売促進のノウハウを持つNPO法人未来と連携。

雪害による連棟ハウス倒壊により援農隊発足

今年は、昨年12月中旬頃より積雪が多く、雪が消えたかと思うとまた雪が降るという天候が悪い日が続いています。

雪の合間の1月6日、昨年末の雪で倒壊した連棟ハウスの撤去作業が行われました。その日は、朝から晴れ、大谷生産組合を中心に声かけされた約五十名の生産者や農業後継者グループのフロンティア、役場農林振興室職員、北栄営農センターからセンター長をはじめ指導課の職員等がかけつけてくれました。



倒壊した20aの連棟ハウスの下には、収穫間近なシンテッポウユリの花が無残な姿をさらしていました。

多くの皆さんの力のおかげでハウスの撤去作業は、午後2時半頃には終了しました。

地域の方々の熱い気持ちを感じ、生産者同志の絆を感じた一日でした。

(森本 真理子)

原発事故による農業への驚異

北栄町農業委員 齋尾 智弘

東日本大震災による原発事故からもうすぐ1年になろうとしている。福島にある親戚から180万円の賠償金が東京電力から入ったと連絡があった。請求の手続きは困難だったが、ガソリン等の領収書を含め関係書類をこまめに残しておいたのが功を奏したようだ。

主な仕事はシイタケ栽培と原木の切り出しだった。しかし放射能汚染によりすべての出荷が停止し収入が途絶えていた。一息ついた。しかし来年以降の出荷は難しいそうだ。ところがそれに対する補償は見込めない。

本年は国連の定める「すべての人のための持続可能エネルギーの国際年」に当たるそうだ。世界のエネルギー問題を考える上で「持続可能性」を重視する識者も多い。原発事故は今なお収束への見通しは不透明で放射能が人体や環境に与える影響を将来に亘って心配されていることは国民の共通する所だろう。

原発の賛否は立場の違いにより色々あるが、放射性廃棄物の最終処分が出来ず何百年何千年も積み残していくことに警鐘が鳴らされているが、根本的な解決方法はないとも言われている。地球上にあってはならないモノが永きに亘り残されるという事実。以上のことを考えた時、原発に依存する社会から新エネルギー社会への方向転換が急がれる。

農業がいつ再開出来るのか、先の見えない福島の人々を考えた時、二度とこういう事態が起らないよう、一刻も早く新エネルギー導入に取り組むべきである。環境が変わって一番影響を受けるのは一次産業の農漁業である事を肝に銘じたい。

農地流動化情報

各集落や地区内における農地の売買契約、貸借契約に至らなかった土地について、地区外からも買い手・売り手を募っています。

詳細を「農地流動化情報台帳」として北条庁舎で閲覧できます。農業委員会事務局までご連絡下さい。

※買い手、借り手の方については、耕作面積等、農家要件が必要です。

※掲載を希望された情報です。

《売りたい・貸したい》

| No. | 農地の所在 | 地目 | 面積(a) |
|-----|--------------|----|-------|
| 1 | 由良宿中高江(貸借のみ) | 畑 | 5 |
| 2 | 由良宿下高江(貸借のみ) | 畑 | 6 |
| 3 | 由良宿西高江(売買のみ) | 畑 | 2 2 |
| 4 | 由良宿西内浜(売買のみ) | 畑 | 2 1 |
| 5 | 由良宿郷原(貸借のみ) | 畑 | 1 0 |
| 6 | 由良宿今地(貸借のみ) | 畑 | 2 1 |
| 7 | 西園外ヶ浜(貸借のみ) | 畑 | 1 3 |
| 8 | 由良宿稲場続(貸借のみ) | 畑 | 1 3 |
| 9 | 江北下虻谷(貸借のみ) | 畑 | 1 2 |

- ◆ 加入申し込みは農業委員会まで
- ◎ 農家を応援する新聞
全国農業新聞
- ◎ 幸福なゆとりのある
老後の生活のために
農業者年金加入

今回は、**農地の取得**についてご説明します。

Q 新規就農者にとって、農地を見つけることは困難です。どのようにすればいいのでしょうか？

A 賃借が可能な農地の情報についてはお近くの農業委員か役場農業委員会事務局又は産業振興課農林振興室までご相談ください。農地の賃借には農業委員会での許可手続きが必要です。

シリーズ 農業委員活動



～ J A 鳥取中央からお知らせ ～ アグリキッズスクール入校児童募集中

J A 鳥取中央は、未来を担う子どもたちに農業体験を通して「農業の大切さ」「食べることの大切さ」を伝えるため、各種関係団体と連携をはかり、農業体験学習に取り組んでいます。

- 対象者 新小学3年生～新小学6年生
- 募集締切 平成24年3月30日(金)
- 開校式 平成24年4月21日(土)
- 申し込み、問い合わせ
大栄支所/TEL 49-1153
北条支所/TEL 36-3321

編集委員より一言

「菜種」の発行当初から、若い農業人を紹介してきました。彼らはそれぞれの分野で多くの友人達に恵まれながら、努力し、苦い経験をして、多くの事を学び取っています。世間では後継者について、何やかんやと騒いでいるけど、若さにはかないません。私自身も一生産者であり消費者でもあります。若い農業人達と一緒に、可能性のある農業を盛り立てていきたいものです。

(前田 浩明)

〔編集後記〕

農業は自然と共生しています。自然のおかげで収穫の喜びも与えてくれますが、又、反面、容赦なく試練も与えます。それが、近年の大雪によるハウス倒壊被害です。今年も連棟ハウスの倒壊が報告されました。

そんな中、今、県やJAでは、大雪に負けない、ハウスの補強対策に取り組んでいます。

北栄町は農業を基盤とする町です。そしてビニールハウスの町でもあります。

私達農家も、生活を支えてくれるハウスの倒壊防止対策をしていきましょう。

豪雪地帯で生活されている被災地の方々の一日も早い復興を願っています。

(淀瀬千賀子)

広報委員 淀瀬千賀子 河原廣美 前田浩明
森本真理子 大西仁美 齋尾智弘